

2024年度 夏期集中／3Q・4Q／後期

京都芸術大学 授業改善アンケート

各学科・センターから学生のみなさんへのフィードバック・コメント

美術工芸学科（アートプロデュース学科・歴史遺産学科含む）

2024年後期に美術工芸学科で開講された全授業のアンケートにご回答いただき、ありがとうございました。皆さんから寄せられた貴重なご意見を拝見し、それぞれの授業を受ける中で、さまざまな考えや感想を持たれたことを知ることができました。

多くの方が、授業を通じて新たな学びを得たり、講義内容を深く理解し、自身の成長を感じたりしたことが伝わってきました。私たち教員が授業を設計し運営する際に目指していた以上の学びを受け取ってくれたという声もあり、それを知ることができたのは大きな喜びです。一人ひとりが授業を通して刺激を受け、制作や研究に対する意欲を高めることができたのであれば、教員一同にとって何より嬉しいことです。

一方で、授業の進め方や教員間の連携に関する問題、教員の発言のあり方、スケジュールに関する事前連絡の遅れ、道具・施設の不備など改善すべき点も多く指摘されました。皆さんがより良い環境で学ぶためには、こうした課題に真剣に向き合う必要があると改めて感じています。寄せられたご意見は、決して見過ごすことなく、教員同士で共有し、解決策を話し合っていきます。今後も、より充実した学習環境を提供できるよう、改善に努めてまいります。そのためにも、日々の授業の中で感じたことや疑問に思ったことがあれば、遠慮なく伝えてください。率直な意見をいただくことで、より良い授業を築ことができると信じています。今後も、皆さん一人ひとりが自身の可能性を広げることができるよう、私たち教員も全力でサポートしていきますので、これからもよろしくお願いいたします。

キャラクターデザイン学科（マンガ学科含む）

授業アンケートにおいて、学生の皆さまからの貴重なご意見をいただきありがとうございました。

学生の皆さんが、なりたいものになるために、成し遂げたいことを成し遂げられるために、そして自分らしく生きていくために、必要な知識や思考力・表現力を自ら学び獲っていく場が大学教育であると考えています。そのために、教員間で情報を共有し、学生の皆さんの好奇心を刺激できるような授業内容に改善していくことはもちろん、教員自身が常に学び成長することを約束します。また、授業における成果を公正に評価するとともに、学生自身が自ら考え挑戦した、自分なりの成果を認め伸ばしていく視野の広さも教員として必要な要素であると考えています。

授業アンケートのみならず、普段の生活から疑問や意見など気軽にご相談ください。

学生のみなさんと共に、楽しく驚きにあふれた学びの場所をつくってまいりましょう！

情報デザイン学科

私たちの励みになるコメントや厳しいご指摘を真摯に受け止め、引き続き授業改善に取り組んでいきます。

- ・ 授業の内容や進行方法、時間配分、課題提出の進行管理等をさらに工夫し、みなさんの理解度が高まるよう努めます。
- ・ 適切な課題設定や提出（方法やスケジュール等）を個々の授業で行うよう改善していきます。
- ・ 特に複数の教員で行う授業は、ストレスの無い運営や、教員間および教員と学生のスマートなコミュニケーションを心がけていきます。
- ・ オンラインツールを活用し、教員と学生の円滑な情報共有に取り組んでいきます。
- ・ キャリデザイン系の授業は目的を明確にし内容の精度を向上させます。
- ・ ゼミの運営（教員の言動、プライバシーへの配慮等）は教員の意識をさらに高め改善します。

プロダクトデザイン学科

24 年度後期授業へのアンケート回答では、24 年度前期と比較して授業設計・運営に関して懸念の声は全般減少したと感じていますが、「時間が足りない」との声は一定数あり、理解度・習熟度に関しての各個人への配慮に加えて授業進行への工夫が必要だと受け止めています。各教員の個性・授業での内容・進め方・様々な工夫・熱意に対するポジティブなコメントも多く寄せられていることを考えると、同様のカリキュラムだった昨年度後期回答結果、新カリの学生を含む 24 年度前期で感じた学生個々への対応・配慮の課題・不安に答える姿勢・努力は理解してもらえ、授業を楽しんでもらっていると感じています。しかしながら、不安・疑問を表すコメントは確実に存在し、感触・結果に甘んじることなく、個々の理解・進捗を丁寧に確認し、すべての学生に対して学修の深化を進める授業対応に引き続き配慮していきたいと思います。

一方で、教員の言動に対して不安・疑問のコメントがあったことは真摯に受け止めています。教員個別に状況を確認し、対応を指示しています。学生からの声を真摯に受け止め学びの環境を整えていきたいと思ます。

アンケートへの回答は、授業の高質化に向けた大事なインプットとなります。学生の声を受け止め、学修環境、授業内容を高質化していきたいと思ますので、アンケート回答の機会を積極的に活用し、率直な意見を聞かせてもらえることを望みます。

空間演出デザイン学科

学生の皆さん、授業改善アンケートに答えていただきありがとうございます。

今期も各授業で素晴らしい制作ができあがり、皆さんの大きな成長がみられ、大変うれしく思っています。

1 回生は自分の考えでデザインを達成し、2 回生は専門デザインを高め、3 回生は社会課題解決のデザインにトライし、4 回生は卒業制作で、多くの人から驚きの声をもらえるほど、社会を変えるアクションとなる完成度高い制作・活動ができました。これは学生皆さんのたゆまぬ努力の結果であり本当に素晴らしいと思います。

授業改善アンケートでは、先生方のアドバイスや相談にのってもらったことなどへの感謝、授業でがんばれたこと、新しい挑戦で力がついたこと、学生同士で高め合い成長できたこと、そういった前向きなことをたくさんいただき、本当にうれしく思いました。教員も授業のために、様々な工夫や学修を重ねて挑んでおり、教員同士の研修も行い、よりよい授業が何かを皆で話し合って進めています。また、皆さんからもらった改善点としては、合評などの教員コメントを皆にとってよりよくなるようにさらに工夫していくこと、グループワークにおける個人の貢献をわかりやすくしていくこと、就活によるやむを得ない欠席がある場合に対応して、授業の進捗や課題の情報をわかりやすく提供していくことなど、よりよい授業となるよう取り組んでいます。

新学期も新しい挑戦をがんばっていきましょう！

環境デザイン学科

- ・講義系科目のコメントシートやレポート提出はその時期や頻度について適切なものに改善していきたいと思います。
- ・オンラインやオンデマンド授業については、年度ごとに検証し、対面への移行（あるいはその逆）、オンデマンドの条件の見直し、など、学生の学習意欲につながる方策をつねに検討し、適宜修正・変更もいとわない姿勢で取り組んでいます。
- ・「進級研究・制作」は課題スケジュールや内容も（今後24カリ生が上学年に移るに従い）初めての試みとなりますので、まだまだ手探りの部分があり、ご指摘の問題点等は當為今後のカリキュラム策定に反映させていただきます。
- ・演習課題や、卒業制作における、いろいろな場面での、学生間の平等性（学生それぞれにへだてなく均等な機会が与えられたり、またグループ課題であれば逆にその中での貢献度が評価に適切に反映されたり）についてのご指摘には、充分配慮して、不公平感を抱くことのないような施策を実施しておこうと思います。

映画学科

2024年度後期授業改善アンケートに回答いただき、ありがとうございました。2年生以上の学生にとって直接関係する局面は限られていたかと思いますが、2024年は新入生の皆さんを対象に新しいカリキュラムがスタートした年になります。なので、こうして皆さんの意見や感触をすぐに受け取れるシステムがいつもにまして貴重に感じられました。私たちに長い時間をかけてカリキュラムを構築したわけですが、それだけでは絵に描いた餅にすぎません。その計画や構想を実際に共有いただいた皆さんが、各授業をどう受け止めたかが重要なのです。良かった点だけでなく、もっと改善できるのではないかと、といった指摘もあり、それらについては学科会議で共有し、教員間で対策を考えました。授業とは教師が一方的に学生に与えるものではなく、両者が一緒に作るものなのだとあらためて実感できた次第です。この3月に卒業した4年生から、合評の在り方について有益な提言がありました。すでにその内容は概ね共有できているはずですが、私たちにとっての反省材料は、学生の皆さんとの意思疎通が不足していたのではないかと、という点でした。そんな反省に立ち、現在、全学年（2～4年）に対し、学科としての合評の考え方をすでに伝え、一緒に合評を作り上げようとしています。そうした両者の意思疎通を図る流れから、新しい合評の姿だけでなく代議員の役割についても変革が起こるかもしれませんね。今から楽しみです。

舞台芸術学科

皆さん、授業改善アンケートでは貴重なコメントを記載していただきありがとうございました。アンケート結果、そして皆さんからのコメントを学科の専任教員全員で共有し、話し合う機会を持ちました。皆さんからのポジティブ・コメントについては、コメントが寄せられた教員の教授法や授業運営のあり方を具体的に学びました。今後、他の教員の良いところは各自の授業に積極的に取り入れていきます。改善要望についても、教員全員でまずは現状を把握し、改善方法を話し合いました。例えば、「進級研究・制作1」に関しては、3Qまでの他の授業としっかり連携することで、皆さんがモチーフ（台本）や各自の役職の役割をより理解した上で自信を持って意欲的に取り組めるように工夫します。「総合演習」科目については、まずは教員の意識改善、そして授業計画と授業進行のあり方を見直すことで皆さんがより充実した稽古や公演活動が実施できるようにします。すべての改善要望にこの場で回答することはできませんが、皆さんが勇気をもって表明してくれた一つ一つのご意見を真摯に受け止めて精進していきます。

舞台芸術は協働によって成り立っています。常日頃から私たち教員は協働力の重要性を皆さんに説いているわけですが、学生諸君にそれを促すだけでなく、私たち教員一同もさらに協働を深めることで皆さんにより充実した学修効果の高い授業を展開していくことをここにお約束します。

文芸表芸学科

学生から寄せられたフリーコメントにはすべて目を通しました。多くのご意見をいただき、ありがとうございます。なかでも好意的な声を多くいただけたことが、教員にとっては励みになりました。

特に 24 年度新カリキュラムの 1 年生授業においては、100 分という長時間授業を有意義にするために授業内でアクティブラーニングの機会を多く設けるなどして授業内容の工夫を施してきましたが、それについて「学生同士のグループディスカッションや合評が楽しく、有意義だった」といった趣旨のコメントが多く、100 分を飽きさせない工夫が奏功したと実感できました。

しかし、その一方で授業によっては手厳しいコメントも多く、今後の授業改善に向けて参考になりました。なかでも一部授業で休講・補講が多い点や、ICT ツールの活用が十分でなかったことによるコミュニケーション不足の問題、課題要項の説明不足、口頭のためのレクチャーではわかりにくいといった、以前から再三指摘されていたマイナス点についてはなかなか改善できず、猛省しております。

今後については、いただいたコメントを真摯に受け止め、授業によっては担当教員の変更や追加なども含めた大胆な改善策も講じており、また、全教員による学科方針やカリキュラムマップの再確認を徹底するなどして、アップデートしていく所存です。

こども芸術学科

授業の流れや科目間の連携・連動に関する情報伝達について、改善を求めるコメントがありました。各授業における流れの説明や、他科目との連携・連動については、学生のみなさんと適切に共通理解が図れるよう教員間でも改めて確認をしその改善に努めたいと思います。

また、課題の周知方法と内容についても改善を求めるコメントをいただきました。周知方法については、後に残る形での周知を原則としながらも、授業内においてもしっかりと説明を実施するよう教員間で確認をし改善に努めます。また、課題内容については、授業の到達目標をしっかりと説明し課題の意図やその背景を考えることができる授業設計へと改善をおこないます。

授業内での学生と教員、また、学生同士でのコミュニケーションのあり方やその頻度について改善を求めるコメントもありました。学生と教員とのコミュニケーションでは、特に言葉の扱い方について、最大限受けての視点に立ちながら発していくことを心がけるよう確認します。また、学生同士でのコミュニケーションのあり方やその頻度については、その仕組みや意義を振り返り、学生さんの負担を減らしていく改善に取り組めます。

教室環境についても改善を求めるコメントをいただきました。夏に地心館の改修工事を行い、3, 4 年生の教室環境が大きく変更いたしました。時期によって組み替えたり、相談室などを補助的に活用するなど、授業がより充実したものとなるよう最大限努めて参ります。

芸術教養センター

授業の満足度に関しては、各教員の改善に向けた取り組みが少しずつ結果を出し始めており、「丁寧な授業進行」、「わかりやすい説明」、「適切な参考資料・書籍の紹介」など、好意的なポイントとしてのコメントが多数寄せられました。また、フィードバックの実施（方法や内容）に関しても同様の意見が出始めており、今後もこの取り組みを継続させて、多くの授業への導入を図りたいと思います。

その一方で、レポートの文字数や課題の締め切りについての不安や不満もまだ見られ、休講・補講に関するアナウンスのタイミングや、オンライン授業における電波障害など配信・受信環境に関する指摘も散見されました。これらの問題に関しては、今後もセンター内で改善を図っていきます。

コメントの中には授業内容の難しさを訴える声もありました。これは以前より散見される意見ですが、授業スピードの調整やスライド画面の整理、レジュメの準備などを充実させる一方で、難しいからこそ学ぶ意味があるという「学び」に関する皆さんの意識の醸成も必要であると感じています。繰り返しのメッセージとなりますが、分かっていること、簡単であることとは対極にある「知の領域」を、引き続き皆さんと一緒に共有していきたいと思います。

資格支援センター

教員および学芸員という公的な「資格」の取得に関わる科目では、専門家として身に付けておくべき知識・技能が授業内容として規定されています。そのうえに、それぞれの教員が専門性を活かして、とくに伝えておきたい関連内容も加えていくかたちで、主に講義形式での授業がつくられています。ただし、授業があまりにも情報を伝えるだけの一方通行なものになってしまわないように、また学生の皆さんの声を随時授業に活かしていけるように、コメントカードや一枚ポートフォリオなどを用いて、教員はどの授業でもなるべく丁寧にフィードバックを行うように心がけています。もちろん、質問や意見があれば、どんどん教員のところへ来て直接コミュニケーションを取ることも歓迎しています。

皆さんの声を活かした今後の授業づくりのためにも、授業改善アンケートに積極的なご協力をお願いいたします。現状、アンケートの回収率が担当教員や授業によって大きな差があることが、資格支援センターではクリアすべき課題の一つであると捉えています。アンケート回答時間の確保や、教員からの促しが十分でなかったかもしれないという反省もしていますが、学生の皆さんも教員に促されてその授業だけを回答するのではなく、受講しているすべての授業についての回答をお願いできたらと思います。

このアンケートについて、今回、自由記述欄には、毎回のコメントカード（シート）やレポートを手書きやプリントアウトではなくデータで提出したいという声が複数見られました。一方で、手書きのコメントに教員が手書きでフィードバックを行っていることをとても好ましく感じている人もいますので、一律にルール化するのではなく、状況に応じた適切な使い方を考える必要があるのでしょうか。そのあり方については、教員の枠組みを超えて、今後、芸術教育資格支援センター全体で考えていきたいと思います。まずは、皆さんから個別に指摘のあった授業について実態の調査を行うことをお約束します。そこで、もし教員のICTの技能的なこと（だけ）がデータ提出を阻む理由であった場合は、センターで技術的支援を行うことで改善をするようにします。